

特集 かねがさき創業塾

応援します！あなたの創業

自分の夢の叶え方

令和6年度のかねがさき創業塾は11月2日～12月14日に全5回開催されました。最終日の12月14日には塾生たちが研修で学んだことを活かし、創業目標に向けての発表を行いました。今回は最終日に発表を行った3名を紹介します。



やま ち かな え
山地 加奈恵さん

創業目標
『日常の中にちょっとした贅沢を届けられるような菓子製造と自家焙煎したコーヒーの提供』

子どもの頃から地元で手に職をつけて何かをやりたいと考え、定年退職のない一生続けていける仕事をしたいと思っていました。地元の産直や花巻空港、新幹線の駅で販売し、金ケ崎町のお土産といえばこれ！と言われるような商品をつくりたいです。

自分所有の木からとれる広島産のレモンや父の地元の名産のイチジクからつくったジャムを使用したお菓子とそれに合うカフェインレスコーヒーを提供したいです。コーヒーは仙台のお店で焙煎している師匠仕込みです。



あり す み りゅう せい
有住 龍星さん

創業目標
『中高生向けのサードプレイス（居場所づくり）と高校生向けの学習塾をつくりたい』

高校生の時に大学進学を目標に学習塾に行きたいと家族に相談した際に、家庭の事情で希望した学習塾に行くことができませんでした。それでも、同じ夢をもつ仲間を見つけ、一緒に勉強する場所をつくって取り組んだことにより志望校に合格できました。その体験を活かし、自分と同じように学習スペースがなかったり、志望校について相談しあえる環境がない学生が、未来の可能性を潰さずに半歩でも踏み出せる社会をつくりたいです。地域おこし協力隊で知り合った人たちとの繋がりを含めて、多くの人と協力しながら理想の社会をつくっていききたいです。



あ べ よう へい
阿部 洋平さん

創業目標
『茅の生産販売。目指すは金ケ崎町が茅葺の最先端の町になること』

茅葺き職人として活動しています。茅葺き屋根の施工に使う茅の材料の茅（ススキ）を生産販売したいです。全国に茅葺き職人はいますが供給が足りていない状況です。千貫石地区に茅の生産地があり、とても品質が良いものが採れているので、茅葺き職人や北上のみのちのく民俗村などの茅葺き保有施設の他、茅を使ったインテリアの照明や椅子、机等の高付加価値の茅葺き商材を広めていければと考えています。今後は販売を通じて茅葺き文化の継承や茅葺き職人の育成などにも取り組んでいきたいです。

◎かねがさき創業塾

創業等を希望する人を対象に、経営、財務、人材育成、販路開拓の知識習得を目的に、創業塾（全5回）を開催しています。創業塾の受講修了者は、登録免許税の軽減措置等の支援制度を利用することができます（必須講座の受講等の要件あり）。

☎ 金ケ崎町商工会（☎ 42-2710）

◎創業等支援事業補助金

町内で事業を始める中小企業者を対象に、事業所等の増改築費、設備・備品購入費、広告宣伝費等の経費の2/3（若者と女性は9/10）、上限50万円を補助します。

☎ 商工観光課（内線 2334）

特集 岩手県立農業高等学校
学生インタビュー



本町六原にある岩手県立農業高等学校の卒業研究発表会が12月18日、同校で開かれました。発表会では、学生自らが計画し実践を通じて調査研究を行ったプロジェクト学習の成果について、各経営科から選抜された2年生12人が発表を行いました。

今回は、最優秀賞に輝いた佐藤日伽莉さん、優秀賞を受賞した千田小百合さん、千田千愛さんに話を伺いました。

佐藤 日伽莉さん
温暖化の条件の中で少しでもブドウ等の果実の着色を向上させるための技術を研究しました。摘葉が満開10日後に2枚摘葉すること着色が向上するなどの効果を導くことができた。栽培以外にも農家さん毎に価格が異なるため、収益向上の試算が難しかった。農大は同じ志を持った人達と多くの時間を過ごし、大いに刺激を受けた学生生活でした。

Profile

さとう ひかり
佐藤 日伽莉さん
（農産園芸科2年）

青森県十和田市出身。父が畜産の研究員をしており、小学生の時に農業に興味を持った。卒業後は岩手大学へ編入予定。卒業研究は「地球温暖化に負けないための果樹の着色向上対策」



Profile

ちだ さゆり
千田 小百合さん
（農産園芸科2年）

北上市出身。祖父母の影響で幼少期から農業に興味を持つ。卒業後は盛岡市の純情米岩手に就職予定。卒業研究は「廃棄されるリングを用いたカットリングの開発」



千田（小） 果実に病気や傷がついたリングは急激に果実腐敗が進むため、加工利用もされずに廃棄されることが多いです。そこでカットリングに着目し、個人農家で傷果をカットリングとして販売する手法について研究しました。品種により収穫時期が異なるほか、褐変経過を観察するため、夜中の3時まで対応しなければならぬこともあり大変でした。農大では、多様な価値観を持った人達と出逢えとても楽しかったです。

Profile

ちだ ちえ
千田 千愛さん
（農産園芸科2年）

茨城県日立市出身。母方の実家が岩手県で農業していたことから、農業へ興味を持ち岩手へ進学。卒業後は県外の育苗会社に就職予定。卒業研究は「ミニトマトの仕立て法の違いによる長期どりの検討」



千田（千） 専攻実習を通してミニトマトを栽培した際の生育後期の収量低下が課題に感じ、テーマ選定しました。斜め誘引とわき芽利用栽培の仕立て方法を併用することにより、市場価格が高騰している時期の収量を拡大できることを確認できました。農大では非農家で農業知識がなくても先生方から丁寧な指導をいただけ、充実した実習ができました。地元を離れて岩手県に来ましたが、岩手の環境を活かした農業を勉強できたことは宝物です。